

インターバンクの声（2017年10月12日）

日本時間の未明に発表された9月19-20日に開催された米FOMC議事要旨の内容も売買の決め手にはならず、円相場は引き続き112円台前半から中盤での値動きを続けている。

ニューヨーク市場の序盤では米金利の低下に加え、共和党内の確執をめぐる報道もあり、ようやく動き出したかに思われたトランプ政権の税制改革の実現に懐疑的な見方が再浮上するなど、112円割れに迫る水準まで円買い・ドル売りが進んだ。

ただ、前日と同じように112円前後の水準ではドルを買い戻す調整も入り、その後はFOMC議事要旨の発表まで徐々にドルの買戻しが進んだ。

ユーロ相場は、スペイン・カタルーニャ自治州の独立問題への警戒感が一服しており、対ドルで1.18ドル台中盤まで買い戻されているが、再び警戒感が強まれば直ぐに売られるだろう。

明日、明後日には9月の米生産者物価指数、小売売上高の発表が気になるが、金曜日に予定されていたパウエルFRB理事の講演がキャンセルされたとの報道もあり、数日中にトランプ大統領が次期FRB議長の指名に動く可能性もあるので、要注意だ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。